



貴賀 議員
荒 (日本共産党
幕別町議員団)

問

共働き家庭やひとり親家庭などが増え、学童保育を必要としている家庭は年々増加している。子供たちは放課後や土曜・夏休みなどの学校休業日に、「家庭に代わる毎日の生活の場」として学童保育所で過ごしている。

保護者の働く環境の変化により、子供たちが学校で過ごす時間よりも、学童で過ごす時間が長くなる傾向にあり、安全で安心して過ごせる場を求める声は多く、学童保育のさらなる充実を求め、以下について伺う。

- (1)平成30年度の学童保育所の入所予定児童数と指導員体制は。
- (2)生活体験・自然体験などの体験学習や郊外活動などを学童保育のカリキュラムに。
- (3)指導員の確保に向けた待遇改善を。
- (4)指導員の定期的な研修を確保するための取組は。
- (5)近年、支援が必要な子供たちが増えている。支援が必要な子供に対する指導員の研修は。

問
つくし学童保育所の過密解消は喫緊の課題と考えるが対策は
答
今後5年間は170名前後で推移し、その後減少に転じることから現状で対応したい

町長(1)平成30年度の学童保育所の入所予定児童数は、12月1日現在、はぐるま学童保育所39人、あすなろ学童保育所51人、つくし学童保育所は第2も含めて167人、やまびこ学童保育所52人、ちゆうるい学童保育所16人、総数は325人となっている。

放課後児童支援員の体制は、幕別町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例に基づき、おおむね40人ごとに2名以上の支援員を配置するとしている。はぐるま学童保育所3名、やまびこ学童保育所4名、あすなろ学童保育所4名、つくし学童保育所8名、ちゆうるい学童保育所2名の配置を予定している。

(2)入所人数や地域性により学童保育所ごとに内容は異なるが、体験学習では、おやつや昼食づくりの調理体験、日本の伝統文化である茶道体験、こども認知症サポーター養成講座への参加などを行っている。自然体験などの所外の活動では、徒歩で行ける範囲での公園

遊びやプール遊び、忠類では白銀台スキー場でのそり遊びなどを行っている。また、地域資源の活用や百人一首、こま回しなど、昔からの遊びをカリキュラムに取り入れている。

今後とも、各学童保育所の体験学習の成果の共有や他市町村の事例についても参考にしながら、カリキュラムの充実に努めたい。

(3)本町の支援員は、通常の一日の勤務時間が4時間30分で、日額臨時職員として任用しているが、社会保険と雇用保険に加入しているほか、非常勤公務災害保険にも加入し、労働条件の整備に努めている。平成27年4月からは、日額賃金を4%増額し、29年4月からも0.2%の増額をした。

(4)北海道と北海道教育委員会が主催する地域学校協働活動推進研修会に年2回参加し、各地域で行われている教育支援活動の事例や、子供が豊かな想像力や表現力を身につけるためのプログラムについてなどの研修を受けている。また、

町内の保育所や各関係機関が主催する研修会に参加し、支援員に必要な知識と技能の維持向上を図っている。

研修会参加者の代替支援員の配置や研修会の開催を学童保育所の運営に支障を来さない時間に設定するなど、研修への参加機会の確保にも努めている。

(5)本年11月29日、学童保育における支援のあり方についての研修会を幕別町発達支援センターが開催し、支援員16人が参加した。今後は、教育委員会が主催する特別支援教育支援員研修会にも参加し、特別支援学級担当教員や特別支援教育支援員と連携を深め、子供が学童での生活を通して成長できるよう努めていく。



つくし学童保育所